

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2016年8月1日 155号
世界平和地球村の建設と自然環境の保護



ファン・アファラ副大統領一行が来訪 パクー稚魚を放流



タロイモ水田のファン副大統領

パクー養殖とタロイモ栽培に大きな期待

六月三十日、副大統領と国會議員ら二十数名一行をレダ基地に迎えました。今回、副大統領が自分から参加したいと言われ、警備兵が急遽二機の飛行機で動員されました。一行は、去る五月六日の放流式に参加するためレダ基地上空まで飛んで来ながら、悪天候で飛行機が着陸できず、残念な思いを抱きながら、今回の機会を待っていました。

アファラ副大統領は、一昨年以来、二度目の来訪です。レダ基地の活動に非常に感銘されていて、八名の国會議員たちを前に、レダプロジェクトの価値を直接訴えられました。タロイモ水田では芋を切り出して口にし、「自分はタロイモの父になつて広めたい」と口にされました。タロイモからパウダーを作るプロジェクトは人類の飢餓問題の克服につながるので、粉を作る機械を提供したいとも表明されました。またパクーの孵化と放流にも高い評価をされ、「レダはパクーとタロイモの事業をやるだけで十分価値がある」と強調されました。

参加された国會議員全員が非常にレダの活動に感動して喜んでくれ、提唱者の文先生にも関心を深め、その自叙伝を皆持つて帰りました。今までに来訪したゲストの中でも、最もレダのプロジェクトを本質的に理解してくれたVIPであつたという意味は大きいです。

今回のパクー稚魚放流とレダ基地のツアには、カサドの市長、パラグアイの平和大使など、女性も数名参加しました。(写真と文：伊達、次面に関連記事)

アファラ副大統領来訪

今回は、副大統領と十分に話す機会がありました。また、レダ基地内を巡りながら、実行中の各種プロジェクトを詳細に紹介することができました。

佐野氏はパワー・ポイントで、なぜレダなのか、文先生が南米、とりわけパラグアイをど

れだけ重要に思い、準備をしてこられたかを中心

に、レダプロジェクト全体を説明しました。貧困からの解放と、環境問題、公害問題、食糧問題の解決、それらが、文先生によつて、パラ

グアイに根付き始めていることを伝えました。

副大統領は自身の知事時代に、農業に力を入れてきました。今回タロイモを自ら掘つてみて、一つの親芋から20キログラムの子芋が取れるの

で、これを粉にすることで、食糧問題の解決の

手掛かりとなると確信されたようです。（タロイモの成分分析をしてあげる、また製粉機を支援

ゲティにもできるし、応用性があります。

また前回のパクー放流時にタグを付けて放流しましたが、上流のエスペランサの付近で、二匹が釣られました。今回もタグを付けた魚を放流しました。国會議員たちも、この放流の重要性に大変に感動していました。

ピラニアやパクーのソーセージは、骨を除いてあるのでヒレやミラネサにもなり、これもお

いしく、応用性があります。小橋さんの作る製品が一級品であることも感じてもらえました。また、カピバラがよくなついて、そのかわいい姿にもびっくりしていました。昼食の時間にも熱心に懇談する。期待しながらレダ基地を後にされました。

米国からの訪問者

六月十三日—十五日、米

国からエヴァン・ルイ氏、フランク・カウフマン氏、原崎エヴァン氏一行がボートに乗つてレダ基地を訪問され、大変意味深い交流ができました。中田所長がレダ基地内を案内し、プロジェクトの意義と価値を説明しました。間近で見るワニやカピバラにも大喜び。短い時間の中で、エスペランサ村も訪問し、レダの未来や、エスペランサ村の具体的な支援などについて活発な話し合いがなされました。最後に、釣り、乗馬、記念植樹をして、チャーターモードでアスンシオンに出発しました。（伊達記）



アファラ副大統領が稚魚を放流する。



パラグアイ川に放流される稚魚の説明を聴く。



大食堂に移動する副大統領一行。



レダプロジェクトを講義する佐野氏。



小橋氏作ソーセージの説明と試食。



タロイモ栽培を説明する中田所長。



公館にて、記念撮影。（6月13日）



昼食の時間にも熱心に懇談する。また、カピバラがよくなついて、そのかわいい姿にもびっくりしていました。

ります。小橋さんの作る製品が一級品であることも感じてもらえました。



★チヨピ(ミゾバシクロムクドリモドキ)

チヨピは、全身が真っ黒な小鳥である。しばしば大小の集団を成し、あたかも黒雲が生きものになつたかのように飛ぶ。この様は、海中でイワシの大群が泳ぐ映像と似ている。



チヨピの小集団

かつて私たちのパンタナール実験農場で、水稻が初めて穂をつけたとき、チヨピの集団が来て、あらかた食い尽くしてしまつた。それ以来チヨピと、これまで田畠の作物を好む緑のインコたちに悩まされ続けていた。とにかくこの二種は数が多い。両者が連合軍のように、一つの群れになることが多い。数百羽のチヨピ軍と数十羽のインコ軍という編成である。

稻穂をつけて水田はネットで覆う。しかし頑丈で器具な嘴を持つインコが網を破り、チヨピが潜り込み、両者が競うようになり、網に絡まつたりして、若干の犠牲者

は出る。しかし仲間の屍を見てひるむような鳥たちではない。連日あたかも通勤するかのようにやつて来ては食べ続け、ついには食べるところが無くなるまで食い尽くすのである。この点、川に棲むピラニアと似ていなくもない。

さて、ある朝目覚めると、寝室にイナゴがいた。廊下に出ると、さらに多くのイナゴ。外に出ると、何と、あたり一面イナゴばかりである。夜のうちにどこから飛んで来たのか、これは大きな被害が出るのでは、と危惧した。

しかし、私たちには強い味方がいた。いつもほどに飛び回つて、タイランチヨウ、カラカラ、そしてチヨピたちである。有り余る私が物顔に飛び回つて、タイランチヨウ、カラカラ、そしてチヨピたちである。有り余る私はこの時まで、チヨピが肉食よりも草食を好みと思っていた。翌日は鳥の数が急増し、翌々日、イナゴは姿を消した。鳥たちを嫌つて移動したのかどうかは判らない。結局、イナゴによる目立つた被害はなかつた。

ほとんどの鳥は、虫の天敵である。だからと言ふわけではないが、私たちはチヨピもインコも駆除したことがない。元々ここは、鳥や虫た

ちの楽園である。そこに鳥がいて、虫がいても成り立つような農法を研究しているのである。さて、純粹に真っ黒な姿のチヨピだが、その声は美しい。すき通つた声を多彩なメロディに乗せて、ひたすらさえずり続ける。

ところで、レダには赤、黄、白など、各種の目を引くタイランチヨウ科の小鳥たちもいる。しかし、彼らは繁殖期以外にはほとんどさえずらない。他方、アトリ科の小鳥たちの多くは、季節を問わず、にぎやかに歌う。その中でもチヨピは、歌うために生まれてきたかのように、熱心に歌う。配偶者を求めて？ 繩張りの宣言？ 練習？ そういう場合もあるかもしないが、いずれにも該当しないような場面がある。時には、わざわざ人が仕事をしているすぐ傍にやつて来て、ひたすら美声を披露してくれるたりする。「♪ねえ、聴いて、聴いて！」と訴えている。どうだ。眞実は、チヨピに聞いて見なければ分らない。パンタナールの自然には不思議が多い。

(スズメ目 アトリ科 グアラニ名: Chopi=チヨピ) (小田記)



さえずるチヨピ



チヨピとインコの混成群

七月一日（土）午前十時より、インター

ネットのビデオ通信を通して青年集会が行
われました。テーマは、「相続と準備」。

青年奉仕隊の参加者が決定し、彼らが準
備するにあたって、先輩たちからアドバイ
スをもらう場として企画されました。地方
からも参加できるよう、また六月からアス
ンションに行っている土佐くんの話が聞け
るよう、オンラインでの開催となりました。
昨年の奉仕隊を機に留学を決意し、台湾に
渡った矢嶋さんも参加し、国際的な集まり
になりました。

それぞれの自己紹介から始まり、近況報
告、質疑応答と続きました。今年参加する
人からの素朴な疑問に、先輩たちから樂し
いエピソードを交えた実感こもるアドバイ
スがありました。蚊対策、移動の多さ、施
設、文化の壁などさまざまな話で盛り上が
りました。現地にいる土佐くんから「今年
のパラグアイは寒いので要注意！」とタイムリー
な情報を得ることもできました。



顔を見ながら、ビデオ通信による集会

最後に先輩たちか
らは「挑戦してほし
い！」というメッセー
ジが伝えられ、今年
参加する山崎さんは
「思った以上に凄い
ツアーダと分かり、
とても楽しみになり
ました」と感想を述
べました。（島田記）

UPF青年奉仕隊がオリンポの学校を修理

今年もUPF隊がやってきました。世界11か
国から集った21名の青年たちが、アスンシオン、
オリンポ、レダにおいて植樹、修理、スポーツ・
文化交流などで奉仕します。（次号で特集予定）



古い校舎をきれいに塗装（7月8日）

引き続き、第十六回国際協力青年奉仕隊活動へのご支援をお願い致します！

今年の第十六回青年奉仕隊の活動地は、パラ
グアイ共和国、パンタナール地域です。青年奉
仕隊員たちが、できるだけ多くの住民に、より



泥田の中でタロイモ収穫体験

多くの時間、奉仕できるよ
う、ご支援をお願い致しま
す。使い残された、はがき、
年賀はがき、書き損じはが
き、未使用の切手などを下
記の事務局あてお送りくだ
さい。また支援金も感謝し
てお受けいたします。

支援金送り先＝郵便口座
番号 61349751 記号 10280
一般社団法人 南北米福地開発協会

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15
岩崎ビル4F

電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール： office@asd-nsa.com
ホームページ： http://asd-nsa.com

会員種別

♠会員一口1000円／月

♠特別会員一口1万円／月

♠法人会員一口1万円／月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

00290-5-113072

加入者名：(シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げ
ます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、
ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけく
ださい。ホームページからも入手できます。

お便り募集



読者の皆様からのお便りを募
集します。本紙記事へのご感
想や提案、皆様個人やご家
庭での歩み、あるいはグル
ープや支部での活動と関連写
真、イラストなどをお待ちして
います。宛て先は、事務局
office@asd-nsa.com
へお願いします。